



中庭ミュージックタイム

本日10日(火)の昼休み、合唱部が中庭(通称:むらさき広場)でミニコンサートを開いてくれました。合唱部は、新型コロナウイルスが流行し始めてからというもの、思うように練習できず、様々な場面での発表も中止となり、練習の成果を披露する場も少なくなっています。そこで、昨年度から中庭ミュージックタイムと称して、ミニコンサートを開いています。



コンサートでは、嵐が歌う「カイト(作詞・作曲が米津玄師)」という曲が披露されました。中庭いっぱい、合唱部の子どもたちの美しい歌声が響き渡りました。歌っている子供たちは表情豊かに歌い、それを聴いている子供たちは、自然と微笑んでいました。

合唱を終えて、合奏部の子供たちに質問すると「人がたくさんいたから緊張したけど、楽しかった。」「もう少し声を響かせたかった。」「次はもっと声を出します。」と次への意欲を高まらせていました。

合唱部は昨年度、コロナ禍にありながら、熊日合唱コンクールにおいて、最優秀賞を受賞しました。その実力をいかんなく発揮してくれた中庭ミュージックタイムとなりました。「帯西ブルー」も中庭にたくさん現れ、感動の渦に包まれた昼休みとなりました。

ICT を活用した音楽の指導



今日音楽室前を通ったら、興味深い授業風景を、目にしました。左の写真を見てください。タブレットを使って、子供がミニオルガンを演奏している隣の子供の様子を撮影しているのです。これは面白そうだと思い、音楽室に入って行きました。そして、音楽専科の近藤先生が、伴奏を始めると、子供たち一人一人がそれに合わせてミニオルガンを一斉に演奏し、その指の動きをペアの子供が撮影しているのです。

撮影し終わると、近藤先生にロイロノートで提出し、それを近藤先生が指導と評価に生かすということでした。近藤先生曰く「動画で撮影した音は、周りの音を拾わず、演奏の子供の音だけ拾うのでとても便利です。ただ、一人一人の演奏の様子を観るので、そこは少し時間がかかります。」とのことでした。ICT を活用した便利な指導法だと感心しました。